

民 法

問題 1

次の各問いについて、それぞれ最大 10 行程度で簡潔に答えなさい。なお、各問いは、独立した問いである。

(1) A は 1 年後に返すという約束で B から 100 万円を借りたが、返済しないまま 15 年が経過した。B は生活が苦しくなったので、A に手紙を送り、利息は免除するから元金 100 万円を返してくれと求めたところ、A から「毎月 5 万円ずつの分割払いにしてくれれば返済できる」旨の返事があり、2 回にわたり計 10 万円が B の銀行口座に振り込まれた。しかしその後、A の支払いが途絶えたため、B が A を被告として貸金返還請求の訴えを提起したところ、A は訴訟の中で、自分の債務は時効によって消滅したと抗弁した。以上の事実関係のもとで、B の A に対する請求が認められるかどうかを説明しなさい。

(2) A の所有する甲土地を建物所有の目的で賃借した B は、その上にみずからの費用で乙建物を建築し、未成年の長男 C の名義でその保存登記をした。B と C は乙建物に長年同居していたが、その後 C が就職して家を出たため、現在は B がひとりで乙建物に居住している。この状況のもとで A から甲土地を譲り受けた D は、B または C に対して、建物収去・土地明渡しを請求できるか。

問題 2

不動産業を営む A 会社から新築建物の売却について代理権を与えられていた営業部長 B は、権限がないのに A を代理して C 銀行から 1000 万円を借り入れた。

この事例のもとで、下記 (1) および (2) のそれぞれの場合について、B が無資力であるとき、C は、B 以外の者に対してどのような請求をなしうるか、また、その要件はどうかを検討しなさい。

(1) C 銀行が A に対する貸付金として 1000 万円を B に交付したところ、B がその金銭で、B 自身の D に対する借入債務を弁済した場合。

(2) C 銀行が貸付金 1000 万円を A の普通預金口座に振り込んだところ、その直後に、A が、E 会社に対して負う債務の弁済として、当該口座の預金残高全額を E に支払った場合。